

莫湖爾河
の出水、
一日の滯
在

哈薩克の
奇橋

哈薩克の
冬窩子

日本人の
モデル

三日、昨夜半より降雨甚しく、路は莫湖爾河に至りて、渡るべからず。行程僅に數町なるも、竟に此に宿す。對岸は緩斜、此處は尙ほ急坂に屬す、渡るに橋なく、空しく水の減するを待つ。

翌四日午前十一時、水漸く少なし。乃ち急行約四里餘、哈薩克の架せる奇橋に頼りて大吉勒噶朗河を越え、阿克布拉克に達す。行程約六里。沿道は概ね天然の好牧場現に、哈薩克の氈幕處々に點々し、河畔に林檎、杏、柳、樺、榆、桑等の樹木多し。

五、濃霧咫尺を辨せず、夾烏爾山

五日午前七時二十二分、夾烏爾山に向ふ。忽ち濃霧全山を掩ひて、四面咫尺を辨せず。前後呼應、馬を曳き杖に憑り、徐歩緩武、斯の如きもの霎時漸く霽る。山北約一里の間、峻坂相踵ぎ、徒歩辛ふじて過ぐべく、他は緩坂にして、騎行容易なり。素勒布拉克谷は水草に富み、哈薩克の冬窩子即ち冬季の家屋點在し、谷を出れば、牧草繁茂の好牧地とす。

偶々其南側なる谷間より、白布を被り、黒衣を着せる妙齡の哈薩克婦人六七名、何れも駿馬に鞭ちて馳せ至る。予は餘りに其乗馭の巧なるに見とれ、思はず、駒を停